

伊南村へ  
ようこそ

# リターン リターンの

# のすゝめ



曾根 てる子さん



曾根 秀雄さん

## 憧れの田舎暮らし

### 曾根さんご夫婦の場合 (伊南村大桃在住)

伊南村大桃地区にお住まいの曾根さんご夫婦はどちらも生まれ育ちともに関東出身。ご主人は足立区に三代以上にわたって根を下ろした生粋の江戸っ子で、奥様は茨城生まれの埼玉育ち。当然どちらも雪の少ない、便利のいい場所で育った人達だ。

縁あって九六年に村内の大桃地区に一戸建を持ち、まずは奥様が定住。その二年後、仕事にけじめをつけたご主人がようやくこの地に落ち着いて夫婦二人の暮らしが始まった。

二人いる子供は早くから独立し都会暮らし。忙しいため、一年に一度顔を見せるかどうかというマイペースだ。

もともとご主人が山好きで、夏は登山、冬はスキーを、特に二〇代には夢中になってやった。奥様と結婚をし共働きで子供を育てる中、ご夫婦でゆくゆくは自然に囲まれた暮らしを、と話し合っていたという。

漠然とながら、あちこち旅で巡る風景の中に夢を描いた。それが現実になったのは、奥様の知人のついで大桃の民宿に遊びに来たのがきっかけだ。

近年は伊南村もあまり簡単に土地を譲ることも無くなったが、親しくなった民宿のご主人が

「まあ、あんたたちなら」と快く提供してくれ、トントン拍子に話は進んだ。まさに縁に恵まれたといっついいい。

現在、奥様は村役場の臨時職員、ご主人は夏は森林組合、冬はスキー場にお勤め。生活はむしろん都会に暮らす時とは一八〇度変わった。仕事は定時に終わり真っ直ぐ帰宅。九時には床につき、日の出と共に起きる、念願の生活サイクル。

一番近いスーパーまで一〇キロもあるのには驚いたが、車があれば何の不便もない。車中心の生活で、逆に運動不足になるところだが、そこは山好き、近隣の登山道のある山はすでに登りつくしたという。山菜とりや茸狩り、夫婦での散歩も欠かせない日課だ。

除雪が行き届いているとはいえず、都会から雪の里に越して早くも五年目になる奥様。「そろそろ雪もイヤになったんじゃない？」という周囲の心配もなんのそので、雪の降り積もった柔らかな曲線が優しくて暖かくて好きだという。

自然の中、自分のペースで生活できるのが何より。都会暮らしのギンギンした毎日の中で失ってしまった精神的なゆとりを取り戻している感覚がわかるという。

住むための届けを出せば確かに「住民」にはなれるが、本当の意味での村民になるには、あたりまえのことかもしれないが、まず村に溶け込む努力が大切、とご主人は語る。そうすれば周囲は必ず暖かく応えてくれるもの。

こういう柔軟さが必要ということ、そして新しい仕事の中で人間関係を築いて村の一部になるのなら、定年ギリギリまで都会にいるよりも、ある程度先の見通しがついた年齢で思い切ってジャンプするということも選択のひとつだ。